九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

大正大学「社会福祉特講Ⅲ」（4年生）授業実践報告

田幡, 恵子
大正大学社会共生学部社会福祉学科 : 専任講師

https://hdl.handle.net/2324/4822579

出版情報：オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp.72-72, 2021-04-30. 雷音学術出版
バージョン：
権利関係：Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International

KYUSHU UNIVERSITY

大正大学「社会福祉特講Ⅲ」(4 年生)授業実践報告

田幡恵子

1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本学科では、社会福祉士養成課程を開講している。本授業は、そのすべての指定科目を、さらに科目横断的、総合的に学ぶことで、社会福祉学全体について基礎知識を習得し、社会福祉士資格取得という成果に結びつけようとするものである。授業は 1 回 2 コマ続きで週 2 回行い、年間 112 コマで、所定の成績評価により 2 単位を与える。

授業運営は、例年であれば個人の予習を前提としてグループ学習を軸に展開するが、2020 年度では、事前学修を除き全てオンライン授業となったので、グループ学習をほとんど行わなかった。教員、学生ともに慣れないオンライン授業では、学生にとって、他学生の学修にも配慮が必要なグループ学修は負荷が大きすぎるためである。

そこで、学生を個別に支援し、コロナ禍にあっても、個々人が学ぶ意欲を持ち続けられることを目指して授業を展開した。

ツールとしては学内のポータルサイト(T-po)、大学が採用している Microsoft Office365 の One Drive、Microsoft Teams、Microsoft Forms を主に用いた。

具体的には次のような工夫を行った。

①学生自身が学修状況をマネジメントするツールとしてオンラインシャトルカードの活用を図る。

シャトルカードは、例年、紙媒体で行ってきた教員と学生のやり取りカードである。2020 年度はこれを One Drive で学生と個別に共有し、学修進捗状況の把握、質問、苦情申立てなどに即時対応できるようにした。学生に対しては常に支持的な応答を心がけた。

②各自の予習を前提とする反転学修を徹底する。

主に、事前学修を T-PO に掲示→各自学修提出・シャトルカードに質問を記入→質問事項を中心に Microsoft Teams でライブ授業(講義と演習)→Microsoft Forms でテスト、という方法で実施した。授業中はチャットで常に質問を受け付け、必ず授業内で回答して、学生が授業に参加している実感を持てるよう工夫した。また、録画を Teams に置いて欠席学生の学修に役立てた。

③反復学修を徹底する。

各科目について基礎的な事項を何回も繰り返し学修し、わからなければ何回でも質問ができる環境を設定して、学生が「分かると嬉しい」経験を積めるようにした。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

授業終了後に履修生を対象に実施したアンケート結果(54 人中 35 人が回答)を見ると、3 分の 2 の学生がシャトルカードに肯定的であった。プラス評価の内容としては、「分からないところを教員に質問しやすくなった」が最も多く、次いで「学修内容の振り返りになった」、「自分の学修進捗状況が把握できた」という評価が多かった。その他に「ひとり学修の孤独感が薄らいだ」「教員に困っていることや希望を伝えやすくなった」があり、学生は教員の意図に沿ってシャトルカードを活用してくれたようである。一方マイナス評価としては、「書くことが多くて時間を取られる」が最も多く、次いで「面倒くさい」とあった。

オンラインでも授業の目的を達成できた学生が多かったようなので、記入項目を減らすなど改良した上で、今後も、オンラインシャトルカードを学修マネジメントツールとして活用しようと考えている。